

# 馬場ひでゆきの活動日誌

## No.95

filipino community joetsu region niigata

### 多文化共生の現場から - 地域を支えるフィリピン人ボランティア -



## 大崎ジェナリンさんに聞く

来てきた頃、上越市内では年々同郷のフィリピン人が増加し、大崎さんのもとにいろいろな相談事を持ち込まれるようになってきました。例えば、彼らが病院に行く際は、通訳で同行をします。いきなり裁判所から通知が来たが内容がまったくわからないというときは、弁護士を紹介して、法律相談に立ち会うこともありました（私も、ある事件の法律相談で大崎さんとお知り合いになったのです）。

### 団体の結成は能登半島地震がきっかけ！

大崎さんは、昨年、フィリピン人のコミュニティ団体である「フィリピーノコミュニティ上越」を立ち上げました。

上越市内でも、在住外国人の方々を見かけるようになり、「多文化共生」と言いながらも、共に生きるにはどうしたらいいのでしょうか。長年上越市内で生活してきた大崎ジェナリンさんにお話を伺いました。

### 上越市内には多くのフィリピン人が居住しています。

上越市内には2024年現在でおよそ2千400人の在住外国人がいますが、そのうちの960人はフィリピン国籍です。頸城区にはフィリピン人が500名以上在籍し、工場に勤務しています。工場周辺にはアパートが立ち並び、フィリピン人が居住しています。

大崎さんは、平成11年に日本人男性との結婚を機に来日し、上越市で生活を始めました。田んぼが広がる風景や冬の雪にはびっくりしたそうです。

大崎さんが日本の生活にも慣

きっかけになったのは、2年前の能登半島地震でした。大崎さんのスマートフォンには、地震発生直後から数日間にもわたり、市内に居住していたフィリピン人から「どこへ避難すればいいのか」「津波は来るのか」「防災無線やテレビが何を言っているのかわからない」といった問い合わせが相次ぎました。大崎さんは、ほとんど眠れない状態だったといいます。

この経験から、大崎さんは個人での支援にも限界があると痛感し、「情報を共有できる組織が必要だ」と考え、コミュニティ団体を立ち上げました。市内に暮らすフィリピン人同士が助け合い、行政や地域ともつながりを持つ団体を目指しています。

### お互いを知ることが大切

団体の活動は多彩です。最近では、フィリピン人が結婚して家庭ができたり、家族を帯同して来日することも普通になってきました。そのため、労働者個

人の相談だけではなく、家庭や子どもの相談もあります。例えば、学校に子どもを通わせていると、子どもが配布物を持ってきます。ところが、フィリピンでは、学校から家庭への配布物はありません。言葉だけでなく制度や慣習の違いに皆さん戸惑われることになります。そこで、通訳や翻訳だけでなく、日本の制度慣習についてもアド



ジェナリンさん、「組織はできたけれど、人手も資金もこれからです」

また、ジェナリンさんは市内の学校で講演をします。その際にはフィリピンの知人も同行して、日本の学校制度について知ってもらいます。他方、日本の保護者や生徒には、フィリピンの小学校で落第の制度があるというところをお話します。それにはみんなびっくりするそうです。在住外国人が増加することは確実です。ジェナリンさんらの活動はこれからますます必要になってくるはず。お互い対話をしながら、相互理解を深めるのが必要ですね。

数年前、火打山に登山に行ったとき、女性数名のフィリピン人のグループに会いました。仕事が休みなので登山に来たとか。彼女らと話しながらか山登りを楽しみました。会話することは大切ですね。



# 私の推し本その30

島崎藤村著「破戒」(新潮文庫)

明治後期、信州小諸の被差別部落に生まれた主人公・瀬川丑松は、その生い立ちと身分を隠して生きよ、と父より戒めを受けて育ちました。丑松は、成人して小学校教員になりましたが、父の戒めを忠実に守っていました。ところが、被差別部落に生まれた解放運動家、猪子蓮太郎を慕うようになり、次第に自らの出生を打ち明けるべきかどうか思い悩みます。やがて学校で丑松が被差別部落出身であるとの噂が流れ、丑松は追い詰められ、遂に父の戒めを破りその素性を生徒たちの前で打ち明けました。

丑松の悩みとは比較などできないかもしれませんが、私も小さい頃は「農家・農村に生まれた」という出自を、知らない人には隠そうとしたり、知っている人には負い目に感じたりしてきました。今よりも農村と都会との間には格差があり、都会がまぶしく見えた時代です。

自分の努力ではどうしようもできないことについて、憲法14条は差別することを禁じています。しかし、まだまだ現実の世界では、差別が多すぎますよね。だから、丑松が抱えた苦悩は、現代にも響く普遍性をもっています。初めて読んだ高校時代以後何度も読みましたが、全然飽きません。だからこそ激しい批判にさらされたり、一時は絶版になっても、しぶとく生き残ってきたのでしょう。ちなみに藤村は、「初恋」の詩もいいですね。



「ヨイショ」の掛け声に応じて力いっぱい跳ね上がる

## 横畑集落小正月行事

### 「馬」「馬づと」

2月14日、桑取地区の横畑集落に伝わる小正月行事「馬」が同所の古民家カフェ「平左衛門」で行われました。

まず、村人3名が竹の棒を持って歩きながら「田均(なぐら)し」「馬(うま)し」「田均(なぐら)し」と馬を呼び出します。その後に腰に鈴をつけた馬役数名が登場して、力いっぱい飛び跳ねます。

「馬」は古くから横畑集落だけに伝わる小正月行事で、15日(旧正月2月15日)の夜、若者が扮する大馬と、子どもが扮する子馬が、集落の各戸をま

わり、家々の茶の間で、馬の跳ねる様子を真似て五穀豊穡を祈りました。

集落の人口減少により、「馬」

行事は昭和53年に一度途絶えてしまいましたが、地元有志団体が平成10年に復活させ、平成15年から、かみえちご山里ファ

ン倶楽部が引き継ぎ、馬行事の伝承保存を行ってきました。飛び入り参加もOKで、主催者から「やってみたらどうですか?」と誘われましたが、腰が抜けそうだったので遠慮しました。でも、来年はやるうかなあ?

## 替女宿Live

### 月岡祐紀子さん

2月15日、高田小町にて「高田替女ふたたび」と題した月岡祐紀子さんの三味線演奏会が開催されました。

会場には若い方の姿が多く、和楽器への関心の高まりもあつてか、皆さん熱心に聴き入っていました。

月岡さんは、替女唄を数曲披露してくださいました。楽しい曲や悲しい曲もありました。中でも「葛の葉の子別れ」という曲は、狐が人間と結ばれて子どもを産んで育てたが、正体がばれて夫と子と別れてしまうとい

う内容で泣けてきました。月岡さんには18年ほど前、高田世界館の立ち上げの頃、世界館で演奏していただきました。帰る際にご挨拶したところ、私のことも覚えてくださっていて再会を喜び合いました。



月岡さん、高田替女の杉本さんらとの思い出を語りながらの熱唱でした。

## 2月議会始まる!

### 3月5日一般質問に立ちます

2月24日から2月議会が始まります。私は、3月5日、一般質問があります。知事選への立候補を表明した花角知事に県政の諸課題を質問します。

#### 2月定例会(議会)日程

2月24日	火	13:00~	本会議
2月25日	水	10:00~	連合委員会
2月27日	金	10:00~	本会議 代表質問
3月2日	月	10:00~	本会議 一般質問
3月4日	水	10:00~	本会議 一般質問
3月5日	木	10:00~	本会議 一般質問 馬場登壇(16時頃)
3月9日	月	10:00~	常任委員会
3月10日	火	10:00~	常任委員会
3月11日	水	10:00~	常任委員会
3月12日	木	10:00~	常任委員会
3月13日	金	10:00~	常任委員会
3月17日	火	10:00~	連合委員会
3月18日	水	13:00~	本会議・常任委員会
3月19日	木	10:00~	連合委員会
3月23日	月	10:00~	連合委員会
3月26日	木	10:00~	常任委員会 採決
3月27日	金	13:00~	本会議 採決・閉会

発行責任者: 馬場ひでゆき事務所

住所 新潟県上越市本町3丁目3番3号

ダイアパレス高田式番館2階

電話 025-546-7110

ファックス 025-546-7666

メール kengi-babahideyuki@wind.ocn.ne.jp